山陰の古代遺跡器

~律令国家と風土記の時代~



隠岐国駅鈴











山陰史跡整備 ネットワーク会議事務局

島根県教育庁文化財課 〒690-8502 島根県松江市殿町1番地 TEL.0852-22-5880 FAX.0852-22-5794 PROBLEM TEL.0852-22-5794 PROBLEM TEL.0852-5794 PROBLEM TEL.0852-22-5794 PROBLEM TEL.0852-5794 PROBLEM TEL.0852-22-5794 PROBLEM TEL.0852-22-5794 PROBLEM T



山陰史跡整備ネットワーク会議検索

山陰史跡整備ネットワーク会議

山陰の古代遺跡

-律令国家と風土記の時代-

はじめに

7世紀~8世紀の飛鳥時代から奈良時代にかけては、我が国において古代国家が完成する時期にあたります。天皇を頂点として、政府が法にもとづき民衆を支配する律令制国家が成立したのです。律令は中国から導入された法で、律は刑法に、令はそれ以外の法に相当します。そして地方においては国ごとの細かい行政の仕組みが張り巡らされていきます。同じく大陸から伝わった仏教文化も急激に全国に広まり、国家仏教としての様相を見せるようになります。やがて、平安時代になると、貴族文化の華やかさとは対照的に、律令国家や仏教にも変容がみられ、次第に貴族に替わって武士が支配する時代へと変化していきます。

鳥取・島根両県の役所や寺院・信仰などの古代遺跡を訪ね、風土記時代の山陰に思いをはせてみましょう。

年 表

| 時代区分 | 元号等(西曆) | 主な出来事 |
|-----------|---|---|
| 古墳時代 | 欽明天皇13年(552) | 仏教伝来(あるいは538年) |
| 飛鳥(白鳳) 時代 | 崇峻天皇元年(588) 大化元年 (645) 天武天皇14年(685) 大宝元年 (701) | 飛鳥寺(法興寺)造営開始 大化の改新(乙巳の変) 仏教興隆の詔 大宝律令制定 |
| 奈良時代 | 和銅3年 (710) 天平5年 (733) 天平13年 (741) | 平城京遷都 『出雲国風土記』完成 国分寺造立の詔 |
| 平安時代 | 延暦13年 (794) 寛平6年 (894) | 平安京遷都 遣唐使を廃止 |
| 鎌倉時代 | 建久3年 (1192) | 源頼朝、征夷大将軍となる |



| Ì | 石見地域の古代遺跡 | 2 |
|---|------------|----|
| | 出雲地域の古代遺跡 | 8 |
| | 隠岐地域の古代遺跡 | 23 |
| ı | 山陰の遺跡分布MAP | 26 |
| 7 | 西伯耆地域の古代遺跡 | 28 |
| | 東伯耆地域の古代遺跡 | 33 |
| | 因幡地域の古代遺跡 | 41 |
| | 古代ミニ辞典 | 53 |

古代仏教と神々

6世紀に我が国に伝来したとされる仏教は、畿内を中心とする飛鳥寺などの創建にはじまり、7世紀後半以降になると上淀廃寺や山代郷北新造院など、地方豪族の氏寺の建立が全国的な広がりを見せます。やがて奈良時代になると、鎮護国家の施策に基づく「国の華」国分寺・国分尼寺の建立など、山陰地方でも推定地も含めて55ヶ寺(鳥取22・鳥根33)の古代寺院が知られています。平安時代になると大山寺など密教系の山岳仏教寺院、三徳山三仏寺(三朝町)や浮浪山鰐淵寺(出雲市)に代表される修験道の行場など、今日まで法灯を伝える寺院が出現し、末法思想に基づく伯耆一宮経塚(湯梨浜町)などお経の埋納も盛んになってきます。

また、こうした仏教の興隆に対して、日本古来の神々に対する信仰も徐々に形を整えていきます。 平安時代の延喜式神名帳に記載のある、いわゆる式内社として名前が上がるのは、因幡50、伯耆 6、出雲187、石見34、隠岐16座の神社で、出雲大社に代表される神々の国出雲が飛びぬけているの がわかります。

律令国家と地方の仕組み

律令国家において、全国は五畿七道に分けられ、さらに国ごとに国-郡(評)-郷(里)という、細かい行政単位が設けられていました。山陰道は東は丹波国(京都・兵庫)から石見国まで8ヶ国からなり、鳥取県は、因幡・伯耆国、島根県は出雲・石見国・隠岐国が相当します。これらの国々は駅馬や宿泊所を備えた中継地である駅家(うまや)を点々と配した官道で都と結ばれていました。

それぞれの国や郡で民衆の直接支配にあたる役割を担っていたのが、国府や郡衙(郡家)といった官衙(役所)でした。官衙では戸籍の管理や租税の徴収といった、地域における実際の行政実務が執り行われました。また、都からの情報もこうした地方官衙を介して民衆へ伝達されました。

貧窮問答歌と風土記にみる古代社会

国司として伯耆国府に赴任したこともある山上憶良(やまのうえのおくら)は、生活に苦しむ農民の姿を「貧窮間答歌」として『万葉集』に歌っています。律令制のもと役所が整備され、絢爛たる寺院が建立された我が国の古代国家を支えた名もなき人々、その暮らしや社会の様子は観音堂遺跡(倉吉市)や向野遺跡(倉吉市)などの集落遺跡や女夫岩遺跡(松江市)のような祭祀遺跡、さらに西山ノ後遺跡(米子市)の胞衣壺などからうかがうことができます。また、奈良時代に国ごとに作成された地誌である風土記には地方の国々の実像が詳細に描かれており、全国で唯一完存する『出雲国風土記』には、郡郷名の由来、産物、地味地形、伝承など、奈良時代の国のありさまが活写されています。

石見地域

石見地域の古代遺跡

石見地域は湾岸線が長く、そのためか日本海を通じての交易が盛んであったようです。遺跡からは様々な 地域から運ばれた品物が発見されています。また、古文書には古代から鉱山の開発が行われていたことが 記されています。このように重要な地域ですが、不明なことも多く、未だ謎の多い地域です。



多量の木簡が出土しました。その中には 掛算の九九を練習した木簡もありました。



昭和40年代の都茂丸山銅山。現在建物はありません。

『続日本後紀』の承和3年(836)と『日本三代実録』 の元慶5年(881)の記事に丸山の銅山開発に関す る記載があります。



てんのうびらはいじ

天王平廃寺 [国道沿いの塔心礎]

市指定文化財

大田市

奈良時代の寺跡で、塔心礎(塔の心柱の礎石)や、金堂と考えられる建 物跡が発掘されました。塔心礎の中心には四角形の舎利孔があります。ま た、ここで発見された瓦の文様は、石見一円で確認されています。



天王平廃寺で発見された軒丸瓦









しげとみはいじ

重富廃寺 [瓦が語る地域交流]

浜田市

奈良時代の寺跡で、特徴的な軒丸瓦が発見されました。この場所から 100m離れた場所でこの瓦を焼いた窯跡が見つかりました。この瓦と似た [交通] 浜田自動車道高速バス 瓦が石川県でも見つかっており、両地域の繋がりがうかがわれます。



重富廃寺で発見された軒丸瓦



※旭ふるさと歴史公園資料館には、

「重富バスストップ」下車 徒歩5分



ようろうのたき

養老瀧 [瀧の水はどんな味?] 益田市



【交通】道の駅「サンエイト美都」から車で10分+徒歩10分

仁寿4年(854)に、醴泉が 湧き出て3日で涸れたという記 述が『日本文徳天皇実録』にあ ります。

どぶろくのような味の水が大 岩の間から沸き出したので朝廷 に献上したところ、朝廷は喜び 元号を斉衡に改元したと伝わり





石見地域

浜田市国分町と下府町の史跡

浜田市国分町と下府町には、石見国分寺跡や下府廃寺など 4か所の史跡があります。また、交易で栄えた大きな集落遺跡もい くつか発見されています。

この地域は古代から中世にかけて、石見国の中心地の一つで あったことは間違いないでしょう。



いわみこくぶんじあと

石見国分寺跡 [土中より輝く誕生仏像出現]



【交 通】JR久代駅

石見国分寺跡は現在の 浄土真宗金蔵寺(こんぞう じ)境内にあります。

礎石の一部が残ってお り、境内東南隅の土の盛り 上がった所は塔が建ってい たと推定されます。

発掘調査では、銅製の誕 生仏が発見されました。





※浜田市教育委員会蔵

いわみこくぶんにじあと

石見国分尼寺跡 [尼寺にも誕生仏あり]

浜田市



「比丘尼所」・「尼所」など の地名や、瓦が多く見つ かっていることから、石見国 分尼寺があったと考えられて います。

ここでも、金銅製の誕生 仏が伝えられています。

国分寺・国分尼寺両方か ら誕生仏が発見されたのは 石見国だけです。





いわみこくぶんじかわらかまあと

石見国分寺瓦窯跡 [寺院あるところに瓦工房あり] 浜田市



【交 通】JR久代駅から

窯跡は石見国分寺跡の西側に隣 接し、石見国分尼寺跡からは南西に 約450m離れた丘陵地にあります。 窯跡からは出土した瓦は朝鮮半島 の影響を受けたものとして注目されて います。石見国分寺へ瓦を供給した 重要な遺跡です。

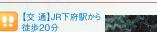


石見国分寺瓦窯跡出土の軒平瓦



しもこうはいじ

下府廃寺 [石見最古の中核寺院]



下府廃寺は、県内最古級の 寺院です。

調査で、寺を建てるに当り、 山を削り谷を埋める大工事を行 い、寺域を造成したことがわかり ました。

花崗岩製の塔心礎には、方 形柱座中央に円柱孔があり、さ らにその中央に直径21cm、深 さ12cmの舎利孔が設けられて います。





よころいせき

横路遺跡 [交易物語る貿易陶磁] 浜田市



【交通】JR下府駅から徒歩15分 ※地図は上記、下府廃寺の地図を参照

平安時代から鎌倉時代の建物跡が多数発見されました。当時 は貴重だった貿易陶磁器が多数見つかり、日本海交易の隆盛を うかがわせます。また、明治5年に起きた浜田地震の痕跡も発見さ れました。



石見地域

石見国府所在地の謎

石見国は「安濃 | (あの)、「邇摩 | (にま)、「邑知 | (おおち)、「那賀 | (なか)、「美濃 | (みの)、「鹿足 | (かの あし)の六郡に分かれていました。『和名抄』という平安時代の辞書には、石見国府は現在の浜田市にある と記載されています。しかし具体的な位置についての記載がないため、国府の位置については、浜田市下 府町とする説、浜田市上府町とする説があります。また大田市仁摩町仁万から浜田市下府町に移ったとす る説、江津市二宮地区から下府町に移ったとする説など諸説があります。石見国府を求めて様々な場所で 発掘調査が行われてきましたが、まだ明確な遺構は確認されていません。ここでは、石見国分寺を守護する と伝えられる「国分寺霹靂神社」など、国府に関連すると考えられる神社を紹介します。

※論社とは、式内社の後裔とされる神社が複数存在する場合に、その候補となる神社のことを言います。

いそたけじんじゃ

五十猛神社



【交 通】JR五十猛駅から徒歩10分

国分寺霹靂神社の論社の一つが合祀されて います。五十猛命は林業の神様です。





かぐらおかはちまんぐう

神楽岡八幡宮



【交 通】JR仁万駅から徒歩10分

神楽岡八幡宮の東にある明神山にあった国 分寺霹靂神社の論社が廃れ、合祀されました。





こくぶんじかんたけじんじゃ

国分寺霹靂神社 浜田市



【交 通】JR久代駅から徒歩25分

国分寺霹靂神社の論社の一つです。陶製の





いかんじんじゃ

伊甘神社

浜田市



【交 通】JR下府駅から徒歩10分

山陰道の駅家と同じ名称であり、「印鑰神社」 など国府を想起させる神社が合祀されています。





石見国府推定地の関連地図





------ 行ってみよう資料館 -------





石見国分寺、石見国分尼寺、石見国分寺瓦 窯跡、横路遺跡の遺物を見ることができます。 【開館時間】9:00~17:00【電話】0855-23-6453

【入館料】無料【休館日】月(祝日の場合は翌日) 【アクセス】JR浜田駅より徒歩10分





6

出雲地域の古代遺跡

~『出雲国風土記』に記された遺跡~

奈良時代に編纂された『出雲国風土記』には、山、川などの自然をはじめ郡家や駅家などの役所、地名伝 承地などの様子が記されており、近年の発掘調査や研究によって風土記に記された場所がかなり明らかにな りつつあります。また、風土記に描かれた古代の景観がそのまま残されている場所も少なくありません。このガイ ドブックを片手に出雲を訪ね歩き、ぜひ古代出雲の息吹を体感してみてください。



めおといわいせき

女夫岩遺跡

[宍道(しんじ)の語源]





【交 通】山陰道宍道ICから

今でも祭られている巨石は宍道の地 名由来に関連する「猪石」の可能性が 指摘されています。

※石宮神社境内の巨石とする説もあります。



松江市 佐為神社



『出雲国風土記』によると、当時出雲国は9郡からなり、それぞれの郡は4~11の郷、神戸・駅・余戸から構 成されていました。また郡家や正倉、軍団・烽などの軍事施設、山陰道をはじめとする国内の道路網、橋や 劉(関所)の場所についても記載があり、当時の出雲国の様子がわかります。(左下写真:秋鹿郡条)

秋鹿郡条

『風土記』とは?

和銅6年(713)、政府は全国60余りの国 ごとに、地名の由来、特産物、古老の伝承を 調査報告するように命じました。出雲国以外 では4ヶ国の写本の一部が残っており、当時 の行政や習俗、物産等を知る上で第一級の 史料です。

出雲の古代寺院

奈良時代の寺院は古墳にかわる豪族たちの新たな権力のシンボルとして盛んに作られました。『出雲国 風土記』には、「教昊寺」と10か所の「新造院」の記述があります。「新造院」とはお寺のことと考えられます が、その所在地については諸説があります。

きょうこうじあと

市指定文化財

教昊寺跡

安来市

[風土記で唯一寺名が書かれている寺院]

【交通】山陰道安来ICから車で15分 ※地図はP14の舎人郷正倉跡を参照

通称「白鳥ロード | 沿いにある遺跡で、多くの 瓦や土器が出土しています。風土記に五層と書 かれた塔の心礎は現在神社祠の基礎として使 用されています。



やましろごうみなみしんぞういんあと

山代郷南新造院跡

[出雲臣弟山が建てた寺] 松江市

【交 通】八雲立つ風土記の丘から自転車で5分 ※地図はP16の八雲立つ風土記の丘を参照

茶臼山の南麓にある寺院跡です。風土記に は、後に出雲国造になる出雲臣弟山(いずもの おみおとやま)が飯石郡の郡司だったときに建 てた寺と書かれています。



やましろごうきたしんぞういんあと

山代郷北新造院跡 [発掘調査で全貌が明らかにされた寺院]

【交通】ガイダンス山代の郷から自転車で5分 ※地図はP16の八雲立つ風土記の丘を参照

風土記には日置君目烈 (へきのきみめづら)が建て

た寺と記されています。 調査の結果、仏像を安 置する須弥壇をもつ金堂 や塔、講堂などが確認さ れ、相輪の部材など珍しい 遺物も多数見つかりまし た。

整備されて見学しやすく なっています。



松江市



やまくにごうしんぞういんあと

山国郷新造院跡、安来市

[日置部の寺]

【交通】山陰道安来ICから車で35分

風土記には「日 置部根緒(ねお)が 三重塔を造営した」 とあり、付近では瓦 窯跡も見つかって います。





さいさいごうはいじ

西西郷廃寺

出雲市

[出雲臣が建てた寺] 【交 通】山陰道斐川ICから車で20分



風土記に記載の ある [沼田(ぬた)郷 新造院」と考えられま す。楯縫郡郡司の出 雲臣大田によって建

てられました。





てんじびらはいじ

天寺平廃寺

[山上の寺院]

出雲市

【交 通】阿宮コミュニティセンターから徒歩50分

標高200mの丘 陵頂部に、建物の 基壇や礎石が露出 していて、奈良時代 後期から平安時代 前期の瓦が見つ かっています。





かんどじけいだいはいじ

神門寺境内廃寺

[特異な瓦出土]





【交 通】JR出雲市駅から徒歩25分

発掘調査によって建物の基壇上にある礎石 や区画溝が確認され、水切り瓦と呼ばれる特殊 な瓦が出土しています。神門郡の朝山郷新造 院の可能性もあります。





10

がくえんじけいだい

鰐淵寺境内

[山陰を代表する天台宗の古刹]

出雲市





【交通】山陰道斐川ICから車で約35分

畑電車雲州平田駅から路線バス鰐淵線で20分、鰐淵寺駐車場から徒歩約15分

北山山中に位置する浮浪山鰐淵寺は、後白河上皇の撰により平安時代末に成立した『梁塵秘抄』にも「聖の住所はどこどこぞ、・・・出雲の鰐淵や、日の御崎、南は熊野の那智とかや」と謡われ、当時から聖地の一つとして都の人々にも知られていた古刹です。持統6年(692)に製作されたとされる重文観世音菩薩立像をはじめ、彫刻、絵画、工芸品、古文書等の貴重な文化財を有する寺としても有名です。平成21年度から島根大学を中心にはじまった総合調査や出雲市の発掘調査により、境内の利用は9世紀に始まり、12世紀以降造成を重ね、文献史料と同じく中世に繁栄していたことが明らかとなりました。







銅製の観世音菩薩立像は国の重要 文化財で、飛鳥時代(7世紀)の作で

大寺谷遺跡

[重要な古代瓦が出土]

大寺薬師 の西広がって、住 高遺跡で、際 宅建 代の 瓦



が発見されました。この瓦は山代郷南新造院跡(松江市)と同笵で、その関係から重要性が高まっています。

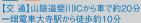
大寺薬師の仏像

国重要文化財

[出雲随一の壮大・荘厳な平安彫刻]







かつて北方の山裾に位置していた寺が洪水により埋もれ、地元の方々により現在地に移された平安期の彫刻が安置されています。

木造薬師如来坐像や四天王 立像など大型の9躯で、いずれも 重要文化財に指定されています。 ひいごうしんぞういんあと



【交通】JR木次駅から徒歩15分

市指定文化財

斐伊郷新造院跡 [礎石が出土 風土記時代出雲最大級の寺院か?]

雲南市

木次駅構内から塔の礎石が発見され、現在の場所に移されています。風土記には大原郡の郡司であ

る勝部臣虫麻呂(すぐりべのおみむしまろ)が建てた寺で、僧が5人いたと書かれており、大規模な寺であったことがうかがえます。





島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館

~古代の遺物を一堂に展示~

意宇平野を一望できる小高い丘の上に展示学習館は建っていて、地内各所から出土した遺物等を多数展示しています。なかでも圧巻は奈良時代の意宇平野の1/1000模型で、調査成果に基づいた精巧な復元は、一見の価値があります。また併設するガイダンス棟には地内の航空写真と史跡検索システムを設置しています。お目当ての史跡を調べて、古代探訪のサイクリングをしてみてはいかがでしょうか。





6 0





史跡検索システム

Setsuo Hirosaki 提供

Setsuo Hirosaki 提供

Information

………… 行ってみよう資料館 ………… 島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館

可収未立八会立ノは上記の丘成小子目

電 話】0852-23-2485

【ホームページ】http://www.yakumotatu-fudokinooka.jp 【開館時間】9:00~17:00(入館は16:30まで)

【休 館 日】毎週火曜日(祝日の場合は翌日)

【入 館 料】一般 200円(20名以上団体160円) 大学生 100円(20名以上団体80円)

> 小・中・高生 無料 通】山陰道松江東ICから車で5分

【交 通】山陰道松江東ICから車で5分 【レンタサイクル】受付で申し込み下さい。(無料)



12

古代の役所

役所は古代においても当時の政治の中心地でした。現在の県庁や市町村役場のように、行政区分に対 応して、国府や郡家などが置かれました。

こしほんごういせき

古志本郷遺跡 [神門郡家か?]

出雲市





○ 【交 週】山底県 斐川ICから車で25分 【交 通】山陰道

斐伊川放水路建設に伴う 発掘調査で、コ字形に建物を 配置した大型建物群が発見さ れました。建物の特徴から神門 郡の郡庁と推定されています。 現在は建物遺構の一部が堤 防の下に保存されています。





うしろだにいせき

後谷遺跡 [巨大な礎石建物・出雲郡正倉か?]

出雲市





山陰道斐川ICから車で8分

風土記に神名火山と記載された 仏経山の麓に位置する遺跡で、総 柱の礎石建物の周辺から多量の炭 化米が発見され、出雲郡家の正倉 と考えられています。





とねりごうしょうそうあと

安来市

舎人郷正倉跡 [税を納めた倉]





【交 通】山陰道安来ICから車で15分

舎人郷は現在の安来市月坂、折坂、野方町 一帯と推定されます。発掘調査が行われていな いので詳細は不明です。





あおきいせき

出雲市

青木遺跡 [役所?神社?居館?]





【交通】一畑電車大寺駅から徒歩5分 ※地図はP12の鰐淵寺を参照

大寺駅のすぐ近 くに位置し、神社 状の建物や礎石 建物、1000点を 超える墨書土器 がみつかりました。 遺跡の性格につ いては役所の出 先説など様々な説 があります。



こおりがきいせき

郡垣遺跡 [移転前の旧大原郡家か?]

雲南市



【交 通】JR木次線幡屋駅 から徒歩5分

平成18年度以降の発掘調査 で、コ字形に計画的に配置された 大型掘立柱建物群が見つかりまし た。この地は、風土記に記載された 「斐伊村」へ移転する前の「旧大原 郡家」の推定地として古くから知ら れており、建物群は旧郡家の「郡 庁」(中心施設)であると考えられて います。





古代の産業

松江市の花仙山で産出されるめのうや水晶は、勾玉などに加工され全国各地に送られていました。古墳 時代以降全国の生産地で玉が作られなくなる中、奈良・平安時代には出雲は全国で唯一の玉生産地とし て栄えました。

いずもたまつくりあと

出雲玉作跡 [御沐の忌玉作る]

松江市



松江市玉湯町の玉湯川 流域に位置します。弥生時代 から平安時代まで勾玉などを 作り続けた工房跡がみつかっ ています。





いずもたまつくりしりょうかん

出雲玉作資料館

玉湯町は古代では日本一の玉の生産地でし た。資料館には遺跡から出土した玉や砥石など の工具も展示しています。

【開館時間】9:00~17:00 (入館は16:30まで)

【電話】0852-62-1040

【入館料】個人300円、高校生以下無料

【休館日】月、祝日の翌日、12月28日~1月4日

【交 通】出雲玉作跡より徒歩3分





松江市

古代出雲の中枢 八雲立つ風土記の丘

八雲立つ風土記の丘は、出雲国府の置かれた古代出雲の中心地で、国府以外にも国分寺や国分尼 寺とそれに伴う瓦窯跡、正倉跡など古代出雲の中枢となる遺跡が集中しています。また「条里」と呼ばれる 古代の地割がよく残っています。地内一円の散策には、八雲立つ風土記の丘展示学習館等にあるレンタサ イクルを利用すると便利です。





川に挟まれた意宇平野につく られました。意宇平野は条里と 呼ばれる基盤目状の区画がよ く残っています。



いずもこくふあと

出雲国府跡[古代出雲国の行政の中心]

松江市



【交通】八雲立つ風土記の丘展示学習館からレンタサイクルで10分

国府は国の行政の中心地で今の県庁のような施設です。出雲国府跡は、松江市大草町に位置し、周辺 の条里制遺構とともに約42¾が国の史跡に指定されています。国府の中心域である出雲国庁の場所は長 らく不明でしたが、昭和43~45年の発掘調査により、整然と並ぶ大規模な建物跡が多数見つかり、この場 所が出雲国府跡であることが確定しました。現在は政庁付近が史跡公園として整備されています。また発掘 調査も継続して行われており、国司の住んでいた館が見つかるなど、多くの貴重な成果が得られています。



発掘された国司館

2棟の大型建物を中心とする建物群で、「館」 の字が書かれた土器や漆紙文書のほか、鍛冶



「意宇杜」推定地の1つ「客の森」

風土記には、国引きを終えた八束水臣津野 命*1がこの地に杖を立てて「おゑ」と叫んだこと から北へ向かう枉北道*3と呼ばれる道が走っ や玉類など手工業生産関係の遺物も出土してが、意宇の地名起源であったと伝えています。
ていました。その交差点が十字街です。 ※1:八東水臣津野命(やつかみずおみづぬのみこと) ※2:十字街(ちまた) ※3杆北道(きたにまがれるみち)

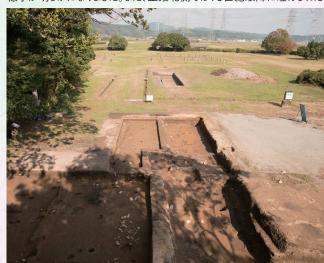


「十字街※2」推定地

国府の北には東西に山陰道が走り、また国府

最新の調査成果

平成27年度からは出雲国庁中心部の調査を行っています。国庁の中心建物である正殿(せいで ん)を発掘調査した結果、掘立柱建物から礎石建物へ建替えられていたことがわかり、政庁変遷の 様子が明らかになりました。また、正殿北側では10世紀以降に埋められた池状施設が発見され、千



点を超える土器が出土 しました。そのほとんどは 椀(わん)などの食器 で、近くにあった重要な 施設から廃棄されたも のと考えられます。

正殿の柱穴からは、 柱の根元にあたる部分 がみつかりました。材質 を調べたところヒノキの 柱が使われていたこと がわかりました。



いずもこくぶんじあと

出雲国分寺跡 [出雲仏教の中心 鎮護国家の象徴]

松江市



を 【交 通】展示学習館から レンタサイクルで15分

※地図はP16を参照

国分寺、国分尼寺は『出雲国 風土記』完成8年後の天平13 年(741)に、聖武天皇が国を安 んずることを目的に各国に建立を 命じた寺院です。発掘調査では、 金堂や講堂などの建物跡が確 認されました。





2町四方(約4万㎡)の範囲に南北に建 物が配置されています。金堂を講堂・中 門・回廊で囲み、北に僧房、南東に塔が あったと推定されています。

やましろごうしょうそうあと 山代郷正倉跡

[米を納めた巨大な倉庫群]

松江市



【交 通】展示学習館から レンタサイクルで15分

※地図はP16を参照

松江市大庭町の通称大庭十字 路の北側に位置する遺跡で、大型 の建物跡が多数見つかっています。 米を納めた建物は床下部にも柱が 立つ高床式の総柱建物で、巨大な 重量に耐え得る構造であったことが うかがえます。





発掘された巨大倉庫跡 柱穴は1辺1m近くある巨大なものです。 付近からは焼米が多数見つかっています。

いずもこくぶんじかわらかまあと

出雲国分寺瓦窯跡

[新羅系の瓦を焼いた瓦窯] 松江市



【交通】展示学習館からレンタサイクルで15分 ※地図はP16を参照

出雲国分寺跡の東にある瓦窯跡です。窯跡 は3基が確認されています。古い瓦のデザイン

は、当時の 朝鮮半島 にあった 新羅の瓦 とよく似て いることが 指摘され ています。



やましろごうみなみしんぞういんかわらかまあと

山代郷南新造院瓦窯跡

[新造院を飾った甍を焼いた瓦窯] 松江市



グロ 【交通】展示学習館からレンタサイクルで10分 ※場所では104 を開 ※地図はP16を参照

山代郷南新造院跡の 近くにある瓦窯跡です。こ こで作られた瓦で新造院 の屋根が飾られました。





都と地方を結ぶ巨大道路 古代の山陰道

古代律令国家が敷設した駅路である、東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道の 「七道(しちどう)」と、近畿地方の「五畿(ごき)」をあわせて、古代の日本列島は「五畿七道」とも呼ばれてい ました。駅路は都と地方を最短距離で結ぶため、直進的に造られています。

うおみづかいせき

魚見塚遺跡

きたにまがれるみち 【枉北道】

松江市





【交通】JR松江駅からバス30分

風土記には、出雲国府に近い「十字街」から北に延び、隠岐へ と渡る「千酌駅」に至る「枉北道」の記載があります。この道は、途 中で川を渡る「朝酌渡」を中継していて、この渡しの推定地近くで 道路遺構が見つかりました。道は最大4.5mの幅で直線的に延び ていて、礫敷や側溝を伴うことが判明しています。古代道として整 備された「枉北道」の一部と考えられ道路の下に保存されていま







いずものくにさんいんどうあと

出雲国山陰道跡 [都へ続く幅9mの古代の道]

出雲市



【交通】JR直江駅から徒歩30分(約2km)

出雲市斐川町神氷から直江に位置し、今から約1300年前に都を起点に全国に張り巡らされた七道駅 路の一部です。風土記に「正西道」と記された道路跡は、丘陵の尾根上に延長1kmにわたって幅9mの古 代官道の痕跡を良好に留めていて、当時の多彩な十木技術を知ることができます。







火葬幕の登場古代の墳墓

古墳時代の有力者は競って大きな塚のある墓、いわゆる「古墳 |を築造していました。ところが、古代にな ると、大きな塚をもつ墓はほとんど見られなくなりました。一方で大陸からは「火葬」という新しい風習が持ち込 まれ、埋葬の方法もかなり変化しました。

こさかこふん

小坂古墳 [古墳の中に石櫃]

出雲市



「交 通】
 山陰道斐川ICから車で25分

6世紀後半に造られた古墳ですが、約100 年後の8世紀に石室の中に火葬骨を入れた石 櫃を持ち込んでいます。石櫃の蓋は失われてお り、身は長さ1m、幅60cm、厚さ50cmの直方 体です。石櫃の中央には直径28cmの孔があ りますが、この孔には銅製骨蔵器を納めていた と思われます。副葬品と思われる「蕨手刀」とい う柄頭が渦をまく刀が見つかっています。





こうみょうじ3ごうぼ

光明寺3号墓 [塚から現れた石櫃]

一辺8m・高さ1mの方形の塚から石櫃が発見されました。石櫃 は一辺75cmの立方体で、1人分の人骨が収められていました。人 骨を分析すると、葬られた人は40歳代以降の男性であることがわ かりました。この墓の時期は7世紀の終わりから8世紀初めと考えら れており、日本に火葬の風習が取り入れられた頃の墓といえます。



0 0

……… 行ってみよう博物館 ……… 島根県立古代出雲歴史博物館

島根の歴史をものがたる貴重な文化財を多数展示しています。テーマ別 展示室では、古代の出雲の様子が記された「出雲国風土記」を手がかりに、 当時のくらしを再現して紹介しています。

【開館時間】9:00~18:00(休館日は毎月第3火曜(祝日の場合その翌日) 【電話】0853-53-8600 【ホームページ】http://www.izm.ed.jp 【入館料】常設展:一般600円、大学生400円、小中高生200円

企画展:展示ごとに金額が異なります。※年間パスポート(1,500円)あり 【交 通】J-畑電車「出雲大社駅」から徒歩約10分、JR「出雲市駅」から 一畑バス「出雲大社・日御崎」行き「正門前」下車、徒歩約2分、 山陰道「出雲IC」から国道431号線経由で約20分



飯石郡・仁多郡の古代遺跡

ばばいせき

馬場遺跡 [壮麗な副葬品]







【交 通】松江自動車道 三刀屋木次ICから車で5分

奈良時代の建物跡や平安時代の墓などが 発見されました。墓からは大刀、鋏、毛抜き、火 打ち金、ヘラで「黒田」と書かれた土器などが 出土しました。釘を使って丁寧に棺を作る点な どが京都の墓に似ていることから、都の情報 に通じた有力者の墓と考えられています。

出土品の一部は島根県立古代出雲歴史 博物館(P21)で見ることができます。







かねつきめんいせき

カネツキ免遺跡 [特殊な遺物が大量に出土]

奥出雲町





【交通】道の駅「酒蔵奥出雲交流館」

装飾付き大形円面硯、「大」「上備」「伴」 の字が書かれた土器、人形・曲物・箸などの 木製品、製塩土器などが出土しました。出土 遺物や付近に「大領原」「内裏原」などの地 名があることなどから、仁多郡家と関連する 遺跡と考えられます。これらの遺物は奥出雲 多根自然博物館で見ることができます。











仁多郡奥出雲町佐白236-1 【開館時間】9:30~17:00 話】0854-54-0003 【休館日】火(祝日の場合は翌日) 通】中国横断自動車道

たかだはいじ

高田廃寺[謎多き古代寺院]





【交通】道の駅「酒蔵奥出雲交流館」から車で10分 ※地図は上記、カネツキ免遺跡を参照

『高田寺根元録』によれば、『出雲国風土記』に仁多郡の大領として名 前のある蝮部臣(たじひべのおみ)の祖父が建立したと伝えられています。軒 丸瓦や軒平瓦などが見つかっていますが、伽藍配置など詳細は不明です。



隠岐地域の古代遺跡

隠岐国は周吉(すき)・隠地(おち)・海部(あま)・智夫 (ちぶ)の4郡からなり、国分寺跡など主要遺跡の多くが八 尾平野(周吉郡)に分布しています。

律令制下で政治・経済・文化の中心となったこの地域 は、古墳時代後期以降、前方後円墳が集中的に築かれ たところで、この頃から隠岐国としての下地が整っていった

国分寺などの官寺のほか、高句麗系瓦が出土した郡廃 寺や権得寺廃寺といった私寺も造営され、都から遠く離れ た当地でも仏教文化が開花した様子がうかがえます。

朝廷への海産物の貢納や配流による都人・文物の交 🙃 流がもたらした影響も大きかったと考えられます。





郡廃寺(隠岐の島町)

国分寺以前に造営されたと 考えられる古代寺院です。



寺ノ峯経塚(西ノ島町)

中国産の陶製四耳壺に 経典を収めて土中に埋め ていたようです。



島前

知夫村



← 隠岐空港



大座西2号墳(隠岐の島町)

隠岐の横穴墓や古墳は、奈良時代まで 使われました。この古墳からは銅碗・帯金 具など貴重な発見もありました。

おきこくぶんじけいだい

隠岐国分寺境内 [華やかなる蓮華会舞]

隠岐の島町



【交通】西郷港からバス17分「国分寺前」下車すぐ 父 連】四炯/高ルラ ※地図はP23の地図を参照

伝後醍醐天皇の行在所として知ら れ、境内は国史跡となっています。寺院 は後世に衰退し、室町後期に再興され ますが、明治2年の廃仏毀釈により旧堂 塔は焼失し礎石のみが残っています。近 年境内の発掘調査が行われ、創建時の 隠岐国分寺に関わる遺構が確認されて います。建物跡の柱穴列は東西9間、南 北5間にわたり等間隔で並び、金堂等 の主要施設と考えられます。





おきこくぶんにじあと

隠岐国分尼寺跡 [瓦が語る尼寺山の遺跡]

隠岐の島町



【交通】西郷港からバス17分「国分寺前」下車 徒歩10分 ※地図はP23の地図を参照

隠岐国分寺跡の南東約400m、「尼寺山」 の丘陵上に位置します。調査では、金堂と講 堂と考えられる建物跡2棟と中門や柵列などが 見つかりました。遺物は須恵器や緑釉陶器や 瓦などが出土しました。軒丸瓦は、隠岐国分寺 と同じ型で作られ、上淀廃寺・教昊寺系瓦の退 化型式です。周辺地形から1町四方(約1万 m)の寺域であったと考えられています。





にじばらいせき

尼寺原遺跡 [隠岐一の大遺跡]

隠岐の島町



[交 通】
 西郷港からバス20分「隠岐高校」下車すぐ

※地図はP23の地図を参照

県内屈指の古代集落遺跡です。古墳時代末~ 平安時代中頃の掘立柱建物跡73棟のほか、道路 跡など多数の遺構が発見されました。柱間7×5間の

特殊な建物跡や緑釉 陶器などが出土してお り、一般的な集落とは 異なる様相を示してい ます。遺跡の主要部分 は保存されています。





こうさんじあと

光山寺跡 [篁うたれたる壇鏡の滝]

隠岐の島町



平安初期の歌人として知ら れる小野篁(おののたかむら) が、隠岐配流後、承和7年 (840)に赦免されるまでの数ヶ 月間を過ごしたと言われていま す。本堂は明治の廃仏毀釈に よって焼失し、4×5間の礎石が 今に伝えられています。





古代隠岐地域の遺物紹介

凡 例 1 名称 ② 出土遺跡・所在地 ⑤ 時期 ◎ 展示している施設

● 1 隠伎倉印(国指定重要文化財)

- ②億岐家に伝来
- 奈良時代
- 億岐家宝物館



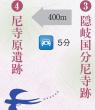
倉印は税の出納管理をするために使用されました。 隠伎倉印は銅製で、隠岐国造家億岐家に伝わって います。現存する倉印は、駿河国と但馬国と合わせ て3国だけです。

- ●和同開珎の銀銭
- ③ 黒木横穴墓群(西ノ島町)
- 奈良時代
- ○西ノ島町 自然民俗資料館 「ふるさと館」



和銅元年(708)に鋳造された和同開珎は、銅製 と銀製の二種類があります。流通量が少ないせい か、近畿より西側での発見は稀で、出雲国府跡に続 く二枚目の発見となりました。

隠岐の古代遺跡を満喫コース





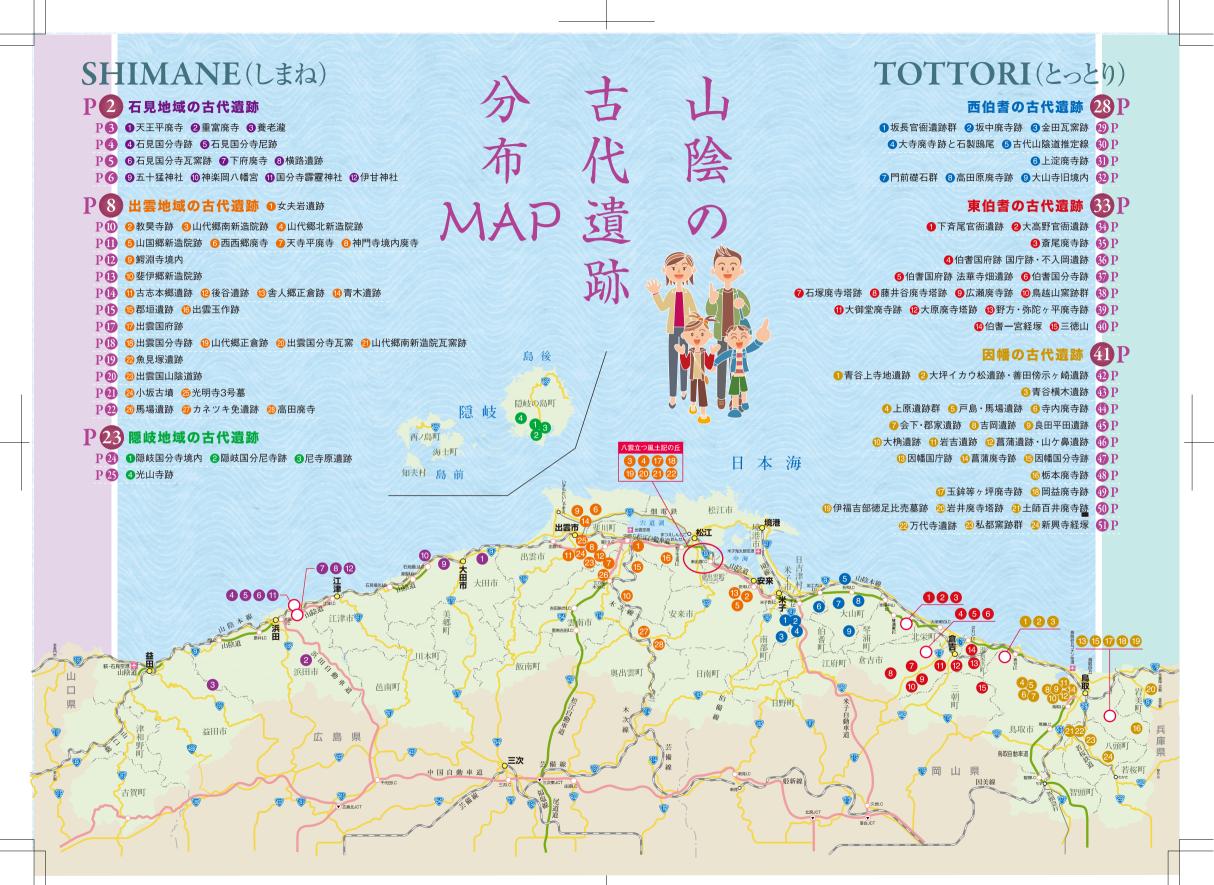












西伯耆の古代遺跡

古代伯耆国は国府の置かれた久米郡をはじめとする6郡からなります。このうち現在の鳥取県西部にあた る西伯耆地域は、日野川流域と大山山麓からなり、弓ヶ浜半島(夜見島)は当時まだ陸続きになっていません でした。平安時代には伯耆6郡のうち会見(あいみ)・汗入(あせり)・日野(ひの)郡が置かれていました。

会見郡は現在の米子市、境港市、南部町、伯耆町の一部などにあたり、郡衙と推定される伯耆町坂長の 官衙遺跡群に加えて、白鳳期の大寺廃寺跡、奈良期の坂中廃寺跡と金田瓦窯跡、青木遺跡・諏訪遺跡 群などの古代集落の様相が明らかになっています。延喜式神名帳には伯耆国6社とあり、会見郡内では大 神山神社、宗形神社があります。

汗入郡は大山の北西麓を占め、現在の大山町と米子市の一部(旧淀江町)があたります。郡衙の位置は 明らかになっていませんが、名和神社境内の長者原遺跡からは大型建物の柱穴と炭化米が発見されてお り、正倉と思われます。淀江平野は古墳時代の後半から繁栄し、白鳳期には上淀廃寺が創建されました。

また、「出雲国風土記」に火神岳と記されている大山は、古くから山岳信仰の霊山であり、修験道の聖地でも ありました。中腹の大山寺は天台宗の古刹で、平安時代には都に強訴に上るほどの勢力を誇っていました。

日野郡の名称は現代まで引き継がれており、日野川流域の日野3町と伯耆町の一部が相当します。郡衙 や寺院の様相は明らかになっていませんが、長楽寺には平安時代の古仏が伝わっています。また、古来より 砂鉄を用いた鉄生産が盛んに行われた地域として知られています。









さかちょうかんがいせきぐん

坂長官衙遺跡群〔鉄器製作工房を伴う会見郡衙〕

伯耆町





↓ 【交 通】JR米子駅から岩屋谷行バス「岩屋谷」下車すぐ

長者原台地に展開する奈良・平安時代の遺跡群で古代会見郡衙と推定されています。長者屋敷遺跡は 溝によって区画された東西180m(南北は不明)の広大な範囲に整然と並ぶ8世紀代の大型掘立柱建物2 棟が発見されています。また、谷を挟んで400m東側の坂長下屋敷遺跡では、L字状に配された庇付建物を 含む8世紀後半から9世紀前半にかけての官衙あるいは居館と推定される建物群が確認されています。

その南側の坂長第6遺跡では、大 型掘立柱建物群と鉄器を製作した 鍛冶炉、鉄滓や鞴(ふいご)の羽口、 るつぼなどを捨てた場所が見つかり ました。会見郡衙の中心となる政庁 域は、坂長第6遺跡東側の集落下 に眠っているものと推定されます。

また、遺跡群北方の諏訪西山ノ 後遺跡では、和同開珎・墨・刀子など を埋納した土師器の胞衣壺が出土 しています。





さかなかはいじあと

坂中廃寺跡

[特殊な構造の塔心礎] 伯耆町





【交 通】JR米子駅から岩屋谷行バス

※地図は上記、坂長官衙遺跡群の地図を参照。

会見郡衙と推定される坂長官衙遺跡群に隣 接する古代寺院跡。径1.5m、厚さ25cmの塔心 礎中央の突出部に径17cm、深さ5.5cmの舎利 孔があり、山陰地方では類例をみない構造で す。出土した軒丸瓦には伯耆国分寺と共通す るものがあり、8世紀後半に創建されたと考えら れます。



かねだがよう(かわらかま)あと

金田瓦窯跡

[ほぼ完全に残る瓦窯跡] 南部町





【交 通】JR米子駅から御内谷行バス

小松谷川上流の丘陵南斜面に立地する瓦 窯跡で、7世紀後半に6km離れた大寺廃寺の 創建瓦を焼いたとされます。

花崗岩の斜面をくり抜いた登窯で、内部は焚 口、燃焼室、焼成室、煙道がよく残り、焼成室に は瓦窯特有の階段状の8段の平坦面がみられ ます。(現在内部を見ることはできません。)



西伯耆地域

おおてらはいじあと

せきせいしび

国重要文化財

大寺廃寺跡と石製鴟尾

[国内2例の石製鴟尾]

伯耆町

【交 通】JR米子駅からバス溝口・日野病院行27分「大寺上」下車すぐ

日野川左岸の平野部に建立された白鳳寺院で、昭和41年からの発掘 調査で大まかな伽藍配置等が明らかになっています。現在、国道181号 線が中央を通り、伽藍は集落の下になっています。東を正面とし、塔を北、 金堂を南、講堂を西に配置して回廊を巡らせる変則的な法起寺式伽藍と 推定されています。金堂は瓦積基壇で、塔には舎利孔に蓋受けが彫り込 まれた心礎が残り、町史跡として、国道脇で公開されています。







大正7年、福樹寺境内から大寺廃寺の瓦屋根を飾った石製鴟尾が発見され、同寺境内に安置されてい ます。石材は地元の角閃石安山岩が使用され、高さ104cm、幅79cm、厚さ53cmを測り、表面には鰭様の文 様が丁寧に彫り出されています。一般には陶製鴟尾が多く、石製の鴟尾は国内では群馬県・山王廃寺と大 寺廃寺の2例しか現存しません。このため国の重要文化財に指定されています。その他には、瓦類と足部な どの塑像残欠が出土しています。

こだいさんいんどうすいていせん

古代山陰道推定線[古代から踏襲された道]

大山町





【交通】 JR御来屋駅から徒歩5分

大山町内では歴史地理学の成果 に基づいて、古代山陰道のルートが 推定されています。平成20年に行わ れた発掘調査の結果、下菖蒲谷遺 跡と西坪三軒屋遺跡の間でこれまで 歴史地理学で考えられてきた古代山 陰道の推定ルートを追認するように、 幅9~10mの道路遺構が約450m にわって存在することがわかりました。

このルートは現在の町道上坪名和 神社線と重複することから、古代山陰 道の可能性が高く、古代から現代ま で道として踏襲されていることが明ら かになりました。







かみよどはいじあと

上淀廃寺跡 [最古級の彩色仏教壁画が出土]

米子市





P【交通】山陰道淀江ICから車で3分

淀江平野の東端、日本海を望む丘陵斜面に 造営された白鳳寺院。西に金堂、東に塔(中塔) という配置を基本としながら、塔(中塔)の南北に 2塔を配して、3塔が南北に並ぶ【三塔一金堂】 の特異な伽藍配置をとります。金堂・塔の基礎は 瓦積基壇で、南塔心礎は柱の根巻き瓦が残る 良好な状態で発見されました。伽藍中枢部は中 門に取り付く南面のみ回廊で、東西は築地塀で 囲んでいたと推定されます。出土した瓦の中に 「癸未年」の年号を刻んだ瓦が発見されており、 7世紀末(天武12年(683)と推定)に創建され たと考えられています。

金堂・塔周辺の焼土中から壁画・塑像片が多 量に発見されました。壁画は、約5000点に及ぶ 壁体のうち、約1200点余に彩色があり、「神将」 「菩薩」「天蓋」「天衣」「花卉」「蓮弁」「頭光」 「遠山と霞」「遠景樹木」等のモティーフが認めら れ、たくさんの仏が登場する物語的な構図が想 定されています。また、金堂及び中・南塔周辺か らは多量の塑像片が発見されており、金堂内に は丈六級如来像をはじめ菩薩・天部像などが安 置され、塔にも塑像が置かれていたと考えられます。

なお、近くに併設している上淀白鳳の丘展示館では、発掘調査 の成果に基づいて館内に金堂内部を復元し、往時の上淀廃寺を 想起させる展示を行っています。

見どころは、塑像片等の資料をもとに当時安置されていた釈迦 如来像、脇侍菩薩像の復元展示です。

このほか、県指定保護文化財の壁画片や、当時の彩色を研究 し、再現した仏教絵画を壁面に表現しています。



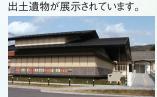




6 6

------ 行ってみよう資料館 ------

上淀白鳳の丘展示館 瓦や壁画・塑像など上淀廃寺跡の





【開館時間】9:30~18:00(入館17:30まで) 【電話】0859-56-2271【休館日】火・祝祭日の翌日、年末年始 【入館料】一般310円・高大生160円・団体(15名以上)60円引き



もんぜんそせきぐん

門前礎石群

[謎の礎石群]



び 通】 JR名和駅から徒歩20分

門前集落から北西の水田地帯の一角にあり、 7石4列、28個の礎石が露出しています。以前に 発掘調査が行われており、古代から中世にかけ て築かれた建物の礎石と考えられています。ま た、周囲の水田下に礎石の抜き取り穴や栗石が 確認されているため、この礎石群以外にも建物 が存在したと推定されます。しかし、建物の性格を 表す遺物が見つかっていないため、どのような目 的で建てられたのかについては謎のままです。







たかたばらはいじあと

高田原廃寺跡

[上淀廃寺と同笵の瓦] 大山町







【交 通】
 JR御来屋駅から車で10分

庄内地区の穀倉地帯を大山に向かった丘陵 地にある寺院跡。かつては瓦窯跡とされていま したが、昭和46年の発掘調査で、一辺9mの乱 石積基壇が確認され、古代寺院と考えられてい ます。出土軒丸瓦は、4km離れた同じ汗入郡内 の上淀廃寺の創建瓦と共通し、上淀廃寺に先 行する寺院ではないかと考えられます。





国重要文化財

だいせんじきゅうけいだい

大山寺旧境内 [霊峰大山に抱かれた山林寺院]

大山町









P【交通】JR米子駅から大山行バス30分「大山寺」下車 米子白動車海光子10かとまってこ

中国地方最高峰の大山は、『出雲国風土記』においても火神岳として登場し、古くより信仰の山として知られ ていたことがわかっています。その山腹に、地蔵菩薩の垂迹である大智明権現を本尊として成立したのが伯耆国 大山寺です。その成立については、『大山寺縁起』に詳細を見ることができ、寺伝では成立時期を養老2年 (718)と伝えています。また、修験の聖地として知られ、平安後期に記された『梁塵秘抄』では「四方の霊験所」と され、大きな拠点の1つであったことを窺わせる記述もあります。

現在、古代に遡る遺構は確認できていませんが、古代の信仰を伝える遺物として、金銅仏4躯(飛鳥~奈良)、 鉄製厨子(平安後期)、木造阿弥陀如来及両脇侍像(平安後期)などが重要文化財に指定されています。









大山寺宝物館 霊宝閣

重要文化財を始めとする大山寺の名宝の数々を 拝観できます。



【開館時間】9:00~17:00 【入館料】300円 【休館日】12月~3月 電話 0859-52-2072

東伯耆の古代遺跡

現在の鳥取県中部にあたる東伯耆地域は、天 神川流域と東郷池周辺、大山山麓からなり、平 安時代には伯耆6郡のうち八橋(やはし)・久米 (くめ)・河村(かわむら)郡が置かれていました。 八橋郡は琴浦町と北栄町の一部にあたり、特別 史跡の斎尾廃寺跡を始め、郡衙及び正倉と推 定されている下斉尾官衙遺跡と大高野官衙遺 跡があり、八橋郡の中心であったことがわかりま す。平安時代以降には船上山が山岳修験の行 場となりました。

久米郡は倉吉市の大半と北栄町の一部にあ たり、国府が置かれた伯耆国の中心地です。7世 紀中頃には山陰最古の大御堂廃寺が創建され、 8世紀になると、市街地の西に広がる丘陵地寺に 伯耆国庁跡、それに関連する役所である法華寺 畑遺跡・不入岡遺跡、国の華ともいわれた伯耆 国分寺が近接して営まれています。さらに法華寺 畑遺跡は国分尼寺に転用されたと考えられます。 周辺景観も含め、古代の地方行政のあり様を示 す貴重な地域です。平安時代になると、山深い 谷奥に大日寺や浄土信仰を表現した広瀬廃寺 が創建されます。

河村郡は湯梨浜町、三朝町と倉吉市の一部 にあたります。大原廃寺、野方・弥陀ヶ平廃寺など の白鳳寺院が建立され、平安時代になると修験 道の行場としての三徳山三仏寺が繁栄し、やが て末法思想の広がりを受けて伯耆一宮・倭文神 社境内などに経塚が造られます。







東伯耆地域

八橋郡衙の古代遺跡

斎尾廃寺跡、大高野官衙遺跡、下斉尾官衙遺跡

伯耆国の中央に位置する琴浦町周辺は古代の八 橋郡で、特別史跡斎尾廃寺跡、史跡大高野官衙遺 跡、下斉尾官衙遺跡は、八橋郡の郡衙とそれと密接 な関連を持った郡衙周辺寺院であり、律令国家による 地方支配の具体相を示す重要な遺跡です。



しもさいのおかんがいせき

下斉尾官衙遺跡

[八橋郡衙の関連施設] 琴浦町





【交通】JR浦安駅から車で5分 ※左記、八橋郡衙の古代遺跡の地図を参照

下斉尾官衙遺跡は斎尾廃寺跡の北に位置し、 発掘調査により区画溝と大型の掘立柱建物で桁 行5間、梁行3間の側柱建物が確認されていま す。区画溝は大高野官衙遺跡で確認されたもの よりも規模が大きく、広い範囲を区画したものと考 えられます。発掘調査範囲は部分的なものです が、斎尾廃寺跡、大高野官衙遺跡との位置関係 から重要な官衙関連施設であったと考えられます。



おおたかのかんがいせき

大高野官衙遺跡 [八橋郡の正倉]

琴浦町





【交 通】JR浦安駅から車で5分 ※上記、八橋郡衙の古代遺跡の地図を参照

大高野官衙遺跡は谷を挟んで斎尾 廃寺跡の東側に位置し、八橋郡衙に おける田租や公出挙(くすいこ)を保管 する正倉院であったと考えられていま す。丘陵を南北105m、東西130mに わたって溝で区画し、その中に整然と 並んだ倉庫群が確認されています。倉 庫群は7世紀末から9世紀後半までこ の区画に造られており、現在遺跡の西 部では、倉庫群の礎石を見ることができ ます。

建物跡は、穎稲(えいとう;稲穂がつ いた状態の稲など)を保管するため、床 面荷重を支えるための束柱を有する総 柱建物の高床倉庫であったと考えられ ています。稲穀収蔵施設である正倉の 姿を具体的に示しており、古代国家の 地方支配の実態を具体的に知る上で 重要な遺跡の一つです。



さいのおはいじあと

斎尾廃寺跡 [山陰唯一の国特別史跡]

琴浦町

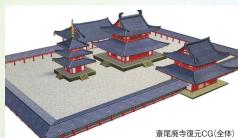




【交通】JR浦安駅から車で5分 ※左ページ、八橋郡衙の古代遺跡の地図を参照

山陰地方で唯一、国特別史跡に指定されている古代 寺院跡。大山山麓の芝畑の中に、金堂跡と塔跡の基壇 や講堂跡の礎石が良好な保存状態で残っています。伽 藍配置は塔を西、金堂を東に置く法隆寺式ですが、講堂 が金堂の北に寄る変則的な配置となり、寺域は溝によっ て東西約160m、南北約250mに区画されています。7 世紀後半の創建とされ、軒瓦の文様は、軒丸瓦が外区 に雷文を巡らす紀寺式、軒平瓦が忍冬唐草文の法隆 寺式と、いずれも近畿地方を中心に分布するものです。

塑像では小型像の仏頭や、唇や螺髪、衣文など丈六 もしくは一丈像の断片が多数出土しており、壁面を飾っ た三尊塼仏とともに白鳳寺院の堂内荘厳の様子を教え てくれます。このように斎尾廃寺跡は、地方にありながら 中央との強いつながりをうかがわせる古代寺院です。





















ほうきこくふあと

こくちょうあといふにおかいせき

国庁跡·不入岡遺跡 伯耆国府跡

倉吉市





【交通】JR倉吉駅からバス社線・北谷線

[我が国を代表する国府遺跡]

伯耆国庁跡は昭和48年からの発掘調査によって遺 跡の内容がほぼ明らかになり、隣接する法華寺畑遺跡と 合わせて国史跡に指定されました。さらに国庁跡から北 東に約1.5km離れた不入岡遺跡で国府に関連する遺構 が確認されたため、これらは一括して「伯耆国府跡/国庁 跡・法華寺畑遺跡・不入岡遺跡」として、国史跡として保 護が図られています。

伯耆国庁跡は、大きな溝で東西273m、南北227mの 範囲が囲われ、儀式などを行う内郭(政庁域)と実務を執 り行う外郭(官衙域)からなっています。築地塀・溝で区画 された内郭には、南門・前殿・正殿・後殿・脇殿・楼閣風建 物などで構成される政庁の殿舎が整然と配され、外郭の 北側と西側には曹司の建物群が確認されています。政 庁と曹司群が一体として区画された中に配置されている のが特徴で、8世紀中頃に造営され、その後大きく3度の 変遷を見せています。特に9世紀中頃には主要な建物が 掘立柱建物から礎石建物に変わり、前殿を廃して前庭を 整備するなど国庁が最も整備された時期を迎えます(右 図)。10世紀以後には新たな造営はみられなくなり、国庁 の機能は他所へ移っていったと考えられています。









伯耆国庁内郭の復元図(9世紀)

不入岡遺跡は、溝で区画された内郭において 廂付建物を長大な建物が「コ」の字状に囲む8 世紀前半の官衙遺跡で、久米郡衙ないしは前記 の国庁に移る前の国庁と考えられています。8世 紀中頃には様相が一変し、総柱建物・長大な掘 立柱建物が並立する倉庫群となり、規模や位置 関係から国庁が直轄する正倉であったと考えられ



ほうきこくふあと

ほっけじばたいせき

伯耆国府跡 法華寺畑遺跡 [復元整備された最大級の四脚門]

Information





【交 通】JR倉吉駅からバス社線・北谷線「国府」下車 徒歩10分 ※地図は下記、伯耆国分寺跡の地図を参照

国分寺跡の北約50mに位置します。 溝と板塀により150m四方に区画され、 各辺の中央に門があります。南門を入 ると広場があり、北側半分中央に3棟の 建物が並びます。こうした構造からは国 庁に関連する役所と考えられますが、平 安時代の記録に国分尼寺の倉から出 火して、南側の国分寺まで焼いたとあ 復元された西門(四

り、発掘調査で見つ かった火災の痕跡と 「法花寺」の地名か ら、ここが国分尼寺と しても使われたと推 定されます。遺跡全 域が整備され、板葺・ 四脚門の西門等が 復元整備されて市民 に親しまれています。





伯耆国府跡·国分寺跡·大御堂廃寺跡 を始めとする倉吉市内の出土品を展示。 【開館時間】9:00~17:00 【休館日】月・祝祭日の翌日 【入場料】一般210円

ほうきこくぶんじあと

伯耆国分寺跡 [国の華・鎮護国家の官寺] **倉**吉市





【交通】JR倉吉駅からバス社線・北谷線「国府」下車 徒歩10分

寺域は東西約182m、南北160mに土塁・溝などで区画され、その西よりに南 北に軸をそろえて南門・金堂・講堂が並び、南東隅に塔が配されています。平安時 代の天暦2(948)年に国分尼寺から出火した火災が国分寺も焼いたと記録があ り、発掘調査でも塔の北西側で焼土・炭化材などが出土して、当時の火災を裏付 けています。12種類もの軒丸・軒平瓦が出土していますが、このうちのいくつかは、 伯耆国内の他の寺院でも出土しており、これらの寺院を建立した豪族が国分寺 造営に協力したと考えられます。その他、屋根の四隅に吊された風鐸や錫杖頭な どの貴重な仏教遺物も出土しています。



高校·大学生100円

伯耆国分寺跡出土風鐸





36

37

いしづかはいじとうあと

石塚廃寺塔跡

[県内唯一の伽藍配置] 倉吉市



【交 通】JR倉吉駅からバス関金線 「石塚入口」下車 徒歩10分

小鴨川左岸の河岸段丘上にある奈良時代 の寺院跡。塔心礎と金堂跡と推定される基壇が 残っています。塔心礎は直径2.2m、中央に直径 70cm、深さ12cmの柱穴があります。金堂跡とさ れる基壇状の高まりは塔心礎の北側にあり、礎 石が数個確認されています。伽藍配置は、県内 で唯一の四天王寺式と発掘調査で確認されま した。8世紀前半の創建と考えられます。





ふじいだにはいじとうあと

藤井谷廃寺塔跡

[奈良時代の山林寺院] 倉吉市





【交 通】JR倉吉駅からバス関金線(明高行き) 「松河原上」下車、徒歩24分

小鴨川左岸の丘陵上にある奈良時代後半 に建立された寺院跡。現在は塔跡の基壇の一 部と塔心礎が残っています。塔心礎は長径1.7 mで、中央に直径45cm、深さ10cmの柱穴があり ます。出土瓦には美作地方や伯耆国分寺・西 伯耆の大寺廃寺などに共通する文様が見られ て注目されます。





ひろせはいじあと 広瀬廃寺跡

[浄土への憧れを表した寺院] 倉吉市





【交 通】JR倉吉駅からバス広瀬線 「広瀬」下車 徒歩13分

倉吉市南部の谷間に立地する平安時代後 期~鎌倉時代の臨池伽藍の寺院。遣り水を引 いた池を中心として北に本堂、西に阿弥陀堂、 東に礎石建物を配置する。浄土教信仰の影響 を受け、この世に浄土世界を表現した寺院と推 定されています。





とりごえやまようしぐん

鳥越山窯跡群

[奈良時代の須恵器窯] 倉吉市





【交 通】JR倉吉駅からバス関金線 「関金温泉」下車 徒歩5分

関金温泉の西側にある丘陵南東斜面に営ま れた4基からなる須恵器窯跡群。このうち奈良 時代の2号窯は、長さ8.2m、幅1.4mで、天井部 分がアーチ状に残る保存状態のよい窯跡でし た。東伯耆の寺院・役所等で使う器を供給した ものでしょう。





おおみどうはいじあと

大御堂廃寺跡 [国家仏教政策の拠点]

倉吉市



【交 通】JR倉吉駅からバス パークスクエア線「合同庁舎前」など

昭和28年に塔心礎・四天柱礎石(上 灘小学校に移設)が発見され、平成8年 以降の発掘調査で中心部の様相が明ら かになった白鳳寺院。東西135m、南北 165m以上の広大な寺域の東側に中心 伽藍を、西側に溜枡などの施設を配して います。伽藍配置は官寺特有とされる川 原寺式(観世音寺式)が採用されており、 僧が住む僧房は大規模な礎石建物で、 木樋と溜枡による上水道施設を完備し ています。出土した軒互などから創建は 山陰地方で最も早い7世紀中頃と考えら れ、鬼瓦・塼仏・塑像・銅製獣頭・銅匙・木 製祭祀具・仏具の鋳型などの多彩な出 土遺物からも、山陰を代表する寺院とい えます。発見された墨書土器から、寺名 が郡名と同じ「久米寺」であったと推定さ れています。







おおはらはいじとうあと

大原廃寺塔跡

[山陰最大級の塔心礎] 倉吉市





【交通】JR倉吉駅からバス三朝線(三朝温泉行)・

天神川右岸の丘陵に所在する白鳳寺院。発 掘調査によって、7世紀後半に創建され、平安 時代末頃には講堂が廃絶したと推定されていま す。伽藍配置は東に塔、西に金堂を配する法起 寺式ですが、講堂が金堂の北側にある変則的 配置をとります。塔心礎は長径2.9mと山陰地 方で最大級の大きさです。出土遺物は瓦の他 に、塑像・塼仏片などがあり、大御堂廃寺との共 通性が注目されます。





のかた・みだがなるはいじあと

野方・弥陀ヶ平廃寺跡

[山陰最古級の寺院] 湯梨浜町







東郷池右岸側の丘陵地に位置する白鳳寺 院で、古代山陰道に面していたと考えられます。 約800m離れた野方と弥陀ヶ平に堂塔があっ たと推定され、弥陀ヶ平には果樹園の中に礎石 群が残っています。多量の瓦や鴟尾片が発見さ れ、大御堂廃寺とならぶ7世紀中頃に創建され た可能性があります。近くに河村郡衙の可能性 がある久見遺跡があります。





東伯耆地域

ほうきいちのみやきょうづか

伯耆一宮経塚 [末法思想に基づく経塚供養]

湯梨浜町





JR松崎駅から車で10分、山陰道はわいICから車で10分

東郷池の東岸、伯耆国一宮として知られる倭文神社境内の丘陵上に、伯 耆一宮経塚があります。直径16m、高さ1.6mほどの墳丘のほぼ中央、深さ 1.5mのところに、埋納品を納めた石槨があり、大正4年に発掘されました。石 槨内からは経典を納めた銅製経筒や金銅仏、弥勒仏を刻んだ銅板、銅鏡、短 刀、檜扇、瑠璃玉などが発見されました。経筒の外面には銘文が刻まれ、康和 5(1103)年に僧京尊が如法経一部八巻を供養したことが記されています。 出土した経筒などは国宝に指定され、東京国立博物館に収められています。









みとくさん

徳 山 [蔵王権現を祀る信仰の山]

国宝·重要文化財





【交通】 JR倉吉駅から三朝方面行バス40分「三徳山参道入口

因幡国との国境にも近い標高900mの険しい山塊にある霊山。北 側斜面にできた自然の岩窟に建てられた国宝・三仏寺奥院(投入堂) を頂点に、急峻な尾根を辿る行者道に沿って納経堂・地蔵堂・文殊堂 ほかの重要文化財建造物が配され、山麓には本堂と三子院がありま す。投入堂に安置された蔵王権現をはじめとする古仏群や、曼荼羅を 鏡面に線彫りした鸚鵡(おうむ)文鏡などの仏教美術の宝庫としても 知られています。平安時代後期に盛んになる修験道の行場としての 雰囲気を今に伝える信仰の山です。







因幡の古代遺跡

現在の鳥取県東部にあたる古代因幡国は、千代川流域を挟んで東の蒲生川・西の河内川流域からな り、万葉歌人大伴家持が「新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉事」の歌を詠んだ国府が置か れた法美(ほうみ) 郡をはじめとし、気多(けた)・高草(たかくさ)・邑美(おうみ)・巨濃(この)・八上(やかみ)・ 智頭(ちづ)の7郡が置かれていました。現在は巨濃郡が岩美町、八上郡の一部が八頭町と若桜町、智頭 郡の一部が智頭町である以外は、すべて鳥取市域となっています。

気多郡では郡衙とされる上原遺跡群とその出先機関と考えられている戸島・馬場遺跡、白鳳期創建の 寺内廃寺跡が知られ、青谷上寺地遺跡や青谷横木遺跡では古代山陰道とされる道路遺構が確認されて います。東大寺領荘園高庭荘が置かれた高草郡には白鳳寺院の菖蒲廃寺跡などがあり、岩吉遺跡では因 幡美人の人形も出土しています。

因幡国府・国分寺跡などが置かれた法美郡は、古代豪族伊福吉部氏の本拠地であり、伊福吉部徳足 比売の火葬墓が発見されています。等ヶ坪廃寺跡、岡益廃寺跡という白鳳から奈良期の寺院も伊福吉部 氏との関わりが推定されます。また、紙子谷窯跡では瓦と須恵器が生産されています。一方、袋川を遡った 国境に近い山奥には、山林寺院の栃本廃寺跡が造営されています。巨濃郡には地元で「鬼の碗」と呼ば れる塔心礎が残る岩井廃寺塔跡が知られています。

八上郡では郡衙と推定される万代寺遺跡と白鳳寺院の土師百井廃寺跡があります。また、私都川流域 の丘陵では古墳時代から奈良・平安時代にかけて大規模な須恵器生産が行われており、国府をはじめと する因幡国一円に供給していたことがうかがえます。智頭郡の郡衙等は明らかになっていませんが、智頭枕 田遺跡では施釉陶器など、平安時代の遺物がまとまって出土しています。



あおやかみじちいせき

青谷上寺地遺跡 [湿地に築かれた古代山陰道]

鳥取市



【交通】JR青谷駅から徒歩10分

弥生時代を代表する青谷上寺地遺跡ですが、古代 山陰道と考えられる道路遺構も見つかっています。道 路遺構は低湿地に盛土で築かれ、石で舗装された路 面に至るまで保存状態良く残っています。盛土内には、 木枝や葉を敷く「敷葉・敷粗朶(しきば・しきそだ)工法」 と呼ばれる当時朝鮮半島から伝わった最先端の土木 技術が用いられていることも明らかになりました。また、 道路遺構に直交し、条里地割を示す盛土遺構も確認 されており、駅路建設が土地開発と一体で行われたこ とを示しています。





おおつぼいこうまついせき よしだぼうじがさきいせき

大坪イカウ松遺跡・善田傍示ヶ崎遺跡 [木製祭祀具の多量出土]

【所在地】大坪イカウ松遺跡:鳥取市青谷町大坪 善田傍示ヶ崎遺跡:鳥取市青谷町善田



【交 通】大坪イカウ松遺跡:JR青谷駅からバス日置線「大坪」下車

善田傍示ヶ崎遺跡:JR青谷駅から徒歩15分 ※地図は上記、青谷上寺地遺跡の地図を参照

大坪イカウ松遺跡は日置川中流域に位置し、護岸施設を伴う流路が見つかっています。その中から人形 や馬形、刀形、斎串が200点以上出土しており、7世紀後半にはこの地域に律令的祭祀が導入されたことが 明らかとなっています。善田傍示ヶ崎遺跡は青谷上寺地遺跡と青谷横木遺跡を結んだ古代山陰道のルート 上に位置し、400点近い木製祭祀具が出土しています。いずれも青谷横木遺跡とともに地方における律令 祭祀を考えるうえで重要な遺跡です。





大坪イカウ松遺跡木製祭祀具集合写真

あおやよこぎいせき

青谷構木遺跡 [柳のある古代山陰道と「女子群像」板絵の出土]

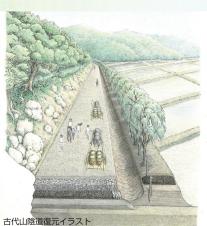


【交 通】JR青谷駅から徒歩20分

※地図は左ページ、青谷上寺地遺跡の地図を参照

青谷平野東端の日置川下流域に位置し、青谷上寺地遺跡と同じく古代山陰道と考えられる道路遺構と 条里遺構がセットで発見されています。道路遺構は山裾に沿って直線的に延び、道幅は6~7mと広く、側 溝も掘られていました。盛土には青谷上寺地遺跡と同様に木枝や葉を敷き、排水性を高める敷葉・敷粗朶 工法という高度な土木技術が用いられています。道路は7世紀末から11世紀にかけて長期間維持され、10 世紀後半には街路樹として柳が植えられたことが判明しています。発掘調査で古代の街路樹が発見された のは、国内で初めてです。

出土品も豊富で、2万点を超える木製祭祀具や県内最多の81点を数える木簡が出土しています。気多 郡西半を管轄する郡衙の出先機関が置かれ、大規模な律令祭祀が執り行われたと考えられます。その他に 「女子群像」板絵は、国宝高松塚古墳壁画に次ぐ国内2例目の発見として注目されています。板絵には6名 の女性が列をなし、ゆっくりと歩を進める行列図が描かれています。裳と呼ばれるスカートの、縦じまの切り替 え模様は高松塚古墳とそっくりです。板絵は中国や朝鮮半島との関連性がうかがわれ、広く古代東アジア における文化交流を考えるうえで重要な資料といえます。





赤外線写真

女子群像板絵図・写真

かんばらいせきぐん

上原遺跡群 [因幡国を代表する郡衙遺跡]

鳥取市





🚔 【交 通】JR浜村駅から車で25分

上原遺跡や上原南遺跡、上原西遺跡、山宮阿弥陀森遺 跡からなり、段丘上の広範囲に気多郡衙を構成する諸施設 が分散して営まれています。上原遺跡や山宮阿弥陀森遺跡 は郡庁とみられ、前者では正殿とされる二面庇の格式高い建

物が確認されています。 また、山宮阿弥陀森遺 跡で「郡家一」と記され た墨書土器が出土し、 郡衙であることを裏付 けています。上原西遺 跡では総柱建物が検 出され、正倉院と考えら れる一方で、上原南遺 跡では大量の瓦や鴟 尾片が出土したことか ら、郡衙と密接に関わる 仏教施設が置かれたと 考えられています。



※上原遺跡群は大きなタブノキが目印です。





としま・ばばいせき 戸島·馬場遺跡

[気多郡衙の出先機関] 鳥取市





【交 通】JR宝木駅からバス

戸島遺跡では口の字型に整然と配置された 掘立柱建物群が、馬場遺跡では塀や溝に囲ま れた敷地内で礎石建物を含む総柱建物群が発

見されています。 両遺跡は小さな 谷を隔てて近接 し、官衙施設とし て一体のもので あったと考えられ ます。上原遺跡 群とは3.5km離れ ていることから、 気多郡東部を治 める郡衙の出先 機関や正倉別院 などの性格が考 えられます。





44

てらうちはいじあと

寺内廃寺跡

[村中に残る塔心礎] 鳥取市



「郡家一」



【交通】JR鳥取駅からバス 鹿野方面[宮方]下車 徒歩5分

上原遺跡群から東に800mの集落内に塔心 礎が残っています。伽藍配置は明らかではありま せんが、発掘調査で寺院に関連する掘立柱建物 が見つかっています。郡衙とその周辺寺院の関 係を考えるうえで重要な寺院です。



えげ・こおげいせき

会下・郡家遺跡 [平安時代の官衙関連施設]

鳥取市

【所在地】鳥取市気高町会下、郡家



【交通】JR浜村駅から車で10分

逢坂谷の段丘上に位置し、奈良時代から平安時代にかけての掘 立柱建物群や道路遺構などが発見されています。なかでも、10~11

世紀にかけては全長16m(桁行7間)の 長大な掘立柱建物や庇付建物などが連 綿と築かれていました。施設群の性格は 明確ではありませんが、気多郡衙の上原 遺跡群が衰退する時期であることから、 国衙領や荘園との関連性がうかがわれま す。遺物も通常の集落ではみられない施 釉陶器や墨書土器、円面硯、鉄鏃、木製 編纂 会下・郡家遺跡 祭祀具などが出土しています。







緑釉陶器

よしおかいせき

よしおかたいかいはいじあと

吉岡遺跡(吉岡大海廃寺跡) [古代山陰道沿いの瓦葺建物]

【所在地】鳥取市吉岡温泉町大海





【交通】JR鳥取駅からバス

湖山池から南西に2.2kmほどの、吉岡温泉 町に位置します。奈良時代初期の瓦や鴟尾が 出土し、瓦葺建物が存在したと考えられますが、 寺院跡かははっきりと分かっていません。

付近を古代山陰道が通り、敷見駅家の比定地 の一つであることから駅家とする説もあります。





よしだひらたいせき

良田平田遺跡[中国地方最古級7世紀末の木簡出土]

45





【交 通】JR鳥取駅からバス吉岡線20分 【交 通】JN局級% -「良田」下車 徒歩10分

湖山池南岸の狭い谷にある良田平田遺跡では、古代の 掘立柱建物群、溝などの遺構が確認されました。溝からは木 簡、墨書土器、銅製腰帯具、木製祭祀具等が出土してお り、遺跡地内には官衙関連施設が存在したと考えられます。 特筆すべきは、「(御)前に白(もう)す」の書式で書き出す上 級官司あての木簡(「前白木簡」)で、7世紀末に遡る中国 地方最古級のものです。

良田平田遺跡は、大宝令以前から津(港)であり、湖山池 と官道の接点として、位の高い人物が立ち寄って文書を受 け取るなどした役所関連施設が存在したようです。



だいかくいせき

大桷遺跡 [東大寺領高庭荘の古代集落と祭祀場]

鳥取市

【所在地】鳥取市大桷、嶋



【交通】JR鳥取駅からバス松上線12分 「大桷口 | または [島 | 下車徒歩5分

野坂川左岸の扇状地や河岸段丘上に広がる奈良時 代から平安時代の集落跡です。9世紀前半には遺跡内 を南北に貫通する河道を挟み、掘立柱建物群が計画的 に営まれ、銅製の帯金具や緑釉陶器、墨書土器などが

出土しています。有力 者の居宅が存在した可 能性もあり、周辺に営ま れた東大寺高庭荘との 関連性がうかがわれま す。また、河道跡からは、 人形や馬形などの木製 祭祀具がウマやウシな どの獣骨とともに大量 に出土しており、当時の 祭祀形態を考えるうえ で重要な資料です。







いわよしいせき

[大量の墨書土器・木簡・ 木製祭祀具が出土した遺跡





【交 通】JR湖山線から徒歩5分

この遺跡内には、現在、商用施設や民家が 建ち並び古代の様子を残すものはありません。 しかし、発掘調査により平安時代の大量の墨書 土器、木簡、木製祭祀具が出土し、倉庫とされ る建物跡が見つかっています。墨書土器には 「草田」、「草」の文字が書かれたものが多く、東 大寺領因幡国高庭荘関連資料に記載されて いる因幡国高草郡北三条草尾(田)とこの地の 関係が考えられます。8世紀~11世紀に、高庭

荘内の高草郡布勢 郷にあたる「高草郡 濃美 | の地名がある 木簡や、「天長二年 (825年)税長」と記 載のある題籤軸があ り、この遺跡には東大 寺領高庭荘の重要 な施設があったことが うかがわれます。



「天長二年税長 | 顕籤軸

しょうぶいせき・やまがはないせき

菖蒲遺跡・山ヶ鼻遺跡

[高草郡衙に関連する遺跡] 鳥 取 市





【交通】JR鳥取駅から車で10分

近くに菖蒲廃寺跡が位置し、古代山陰道が通 るなど、古代高草郡の中心エリアにある遺跡で す。菖蒲遺跡では郡衙に関連する倉とみられる8 世紀後半の総柱建物跡、「草路」と書かれた9世 紀の墨書土器が出土しています。この「草路」の 「草」は高草郡を示し、古代山陰道との関わりを 想像させます。

隣接する山ヶ鼻遺跡からも10世紀の「高」の 文字などが書かれた多数の墨書土器、緑釉陶器 (京都・近江産)が見つかって

おり、高草郡衙や菖蒲廃寺 跡との関係がうかがえます。





「草路 | 墨書土器他

いなばこくちょうあと

因幡国庁跡 [万葉の風景が広がる]

鳥取市





↓ 【交通】

JR鳥取駅からバス中河原線25分「宮ノ下」下車 徒歩15分

因幡三山と呼ばれる今木山、甑山、面影山に囲まれた法美平野の中央に位置しています。国府域は約6 町四方と推定され、南側に国分寺や国分尼寺が配置されています。

国庁域では、正殿と考えられる二面庇をもつ大型建物が発見され、太さ30cmを越える立派な柱も出土して

います。発掘された建物群は平安時代末から鎌倉時代にかけて のものですが、下層には奈良時代の建物群が眠っていると考えら 🕞 😭 れています。また、国庁域の東側では庭園や石組みの井戸を伴う 屋敷地が発見され、国司館などが営まれた可能性があります。

出土品には仁和2年(886年)と書かれた題箋軸や木簡、石 帯、硯、緑釉・灰釉陶器などがあります。国庁域は国史跡に指定さ れ、その一部は史跡公園として整備されています。





しょうぶはいじあと

菖蒲廃寺跡

[水田の中に残る塔心礎] 鳥取市







水田の中に基壇状のわ ずかな高まりがあり、塔心礎 が残っています。発掘調査 では大量の瓦が出土し、 『東大寺東南院文書』にみ られる「薬師寺」が当廃寺 を指すと考えられています。





いなばこくぶんじあと

因幡国分寺跡

[移された塔礎石群]

息取市







※地図は上記、因幡国庁跡の地図を参照

因幡国府の南西500mに位置し、発掘調査で は塔や南門、寺域を示す築地塀、掘立柱建物が 確認されています。塔の礎石は国分寺集落内に 現存する「最勝山国分寺」境内に移されていま す。当時の寺院景観を色濃く留めています。



46

とちもとはいじあと

栃本廃寺跡〔非瓦葺きの古代寺院〕

鳥取市





【交 通】JR鳥取駅からバス「栃本公民館前」下車 徒歩25分

四方を山に囲まれた大石川と谷川の合流点付近の段丘に位置し、飛鳥時代 (7世紀末)に創建され、10世紀初頭まで続いた古代寺院です。当初、東と南の2 箇所で露出していた塔心礎が指定され、東西に2塔を配置した薬師寺式の伽藍 配置が想定されていました。その後、発掘調査により南塔・東塔・金堂・講堂が確 認されました。配置の特徴は、南塔と金堂の主軸が一致するが、講堂は西にずれ ていること、及び金堂と東塔の南辺が一致することで、全国的に珍しい伽藍配置 といえます。因幡山間部の豪雪地域のためか、堂塔には重量のかかる瓦は全く使 われていません。



なぜこのような寺院が山間地に造られたのか、だれが建立したのかなど、多くの 謎が残されています。







たまぼことうがつぼはいじあと

玉鉾等ケ坪廃寺跡 [巨大な鴟尾が飾られた寺院]

鳥取市





【交通】JR鳥取駅からバス 高岡口 | 下車 徒歩10分

袋川左岸、玉鉾集落の西外れに位置しています。圃場整備により礎 石が出土しているほか、発掘調査により金堂の掘り込み地業跡などが確 認されています。出土品で注目されるのは陶製の鴟尾で、山陰地方に特 徴的な文様が施されています。復元された鴟尾の大きさは高さ1.4mを誇 り、使用された堂宇の荘厳さを物語っています。地名である「玉鉾」は、和 歌で用いられる道にかかる枕詞であり、周辺には古代山陰道、もしくは但 馬へと通じる官道も推定されていることから、交通の要衝に造営された白 鳳寺院といえます。







おかますはいじあと

岡益廃寺跡 [国内に例を見ない謎の石堂]

鳥取市



【交通】JR鳥取駅からバス 「岡益橋」下車 徒歩15分

※地図は上記、玉鉾等ヶ坪廃寺跡の地図を参照

「岡益の石堂」と呼ばれるエンタシスの特異な石造物をもつ寺院 跡です。石堂は現在、安徳天皇の陵墓参考地として宮内庁が管理し ています。発掘調査によって金堂や講堂、回廊跡などが確認され、7 世紀末から8世紀初頭に創建されたことが明らかになっています。仮 に、石堂を塔跡に想定すると、法起寺式の伽藍配置となる可能性が 指摘されています。

石堂は、円柱と中台に蓮華文やパルメット文などの浮き彫りが施さ

代の美術様式 の影響が考えら れています。国 内に類例のない 謎の石造物です が、東アジアに おける文化交流 を語るうえで重 要な資料です。





(48)

県道37号

因幡地域

国重要文化財

いふきべとこたりひめのはかあと 伊福吉部徳足比売墓跡 [山陰最古の火葬墓]

鳥取市





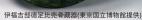
【交通】JR鳥取駅からバス 「宮ノ下」下車 徒歩30分

※地図はP47因幡国庁跡の地図を参照

墓跡は宮ノ下小学校の裏山に位置しています。長さ1.4m、幅0.9m、厚さ50cmほどの巨石をくり抜いて作ら れた石櫃が発見され、その中に銅製の骨蔵器が納められていました。骨蔵器には伊福吉部徳足比売が文 武天皇の采女として仕え、従七位下を賜り、亡くなった後、和銅三年(710年)に火葬にされたことが刻まれ ています。伊福吉部氏は、因幡国造を任じられたとされる因幡国法美郡の有力豪族でした。骨蔵器は重要

文化財として現在、東京国立博物館に所 蔵されていますが、わが国の火葬の歴史を 考えるうえで重要な遺跡です。







いわいはいじとうあと

岩井廃寺塔跡

[鬼の椀があるところ] 岩美町





【交 通】JR岩美駅からバス

蒲生川右岸の山裾、旧岩井小学校の玄関 前に「鬼の椀」と地元の方々に呼ばれる塔心礎 があります。長径3.6m、短径2.4mほどの大きさ で、上面には一辺1.4mの正方形の柱座がつく られ、その中央に直径77cmの柱孔が開いてい ます。飛鳥時代の瓦が出土しており、この寺の 創建年代を示すと考えられています。





はじももいはいじあと

土師百井廃寺跡

[八上郡の白鳳寺院]





【交通】JR郡家駅から車で10分

※地図はP51万代寺遺跡の地図を参照

千代川の支流である私都川北岸に営まれた 白鳳寺院。発掘調査により東に塔、西に金堂を 置く法起寺式の伽藍配置であることが判明して います。塔跡では塔心礎や礎石が動かされるこ となく当時のまま残されています。

出土遺物 には瓦や塑像 (螺髪)、鎮壇 具、陶硯など があり、創建 時の軒丸瓦 は山田寺式 の系統を引く 瓦当文様をも つと考えられ ています。



まんたいじいせき

万代寺遺跡 [国庁クラスの規模を誇る郡庁跡]

八頭町



🔐 Џ 【交 通】若桜鉄道「八頭高校前」駅から徒歩10分

土師百井廃寺跡の南東約500mに位置する八上郡の郡衙跡です。発掘調査で発見された建物群は大 きく3グループに分かれ、そのうち「中央官衙遺構」は郡庁と推定されています。溝によって囲まれた約100m 四方の敷地内には、中枢建物である正殿と脇殿とみられる大型建物が見つかっています。郡庁の規模は通 常50m四方であることから、国庁クラスの大規模な郡庁として注目されます。また、土師百井廃寺跡と同じ 文様の軒瓦も出土し、中心的な建物は瓦葺建物であったと考えられています。





きさいちかまあとぐん

私都窯跡群

[須恵器の一大産地]

八頭町



【交通】 JR東郡家駅から徒歩60分

私都川南側の丘陵斜面部につくられた須恵器の 窯跡群です。全体で30基以上が確認され、このうち

14基の発掘調査が 行われました。その多 くが奈良から平安時 Tutho GRAPH 代にかけて操業され たものであることがわ かり、因幡国府や八 上郡衙などに供給さ れたと考えられます。





しんごうじきょうづか 新興寺経塚

[古代の祈りが今蘇る] 八頭町

【交通】

若桜鉄道八東駅から徒歩15分 新興寺裏山の中腹で、大正6年に見つかっ たものです。急な斜面に穴を掘り、川原石を積ん

で作られた部屋の中 総合公園 に、銅製経筒・刀・青 白磁などが入ってい ました。経筒にはお そらく写経した巻物 が収められていたの でしょう。遺物から平 安時代につくられた と考えられます。





とっとりけんりつはくぶつかん

鳥取県立博物館

鳥取市

【所在地】鳥取県鳥取市東町二丁目124番地

鳥取県の歴史・民俗、自然、美術を学ぶ ことが出来る総合博物館で、旧石器時代 から歴史時代までの出土品を主に展示して 鳥取県立博物館 います。国史跡鳥取城跡の中にあります。 【主な古代遺跡展示品】鳥取県内の古代 寺院出土資料、因幡国庁跡出土資料等



【常設展示入館料】 一般180円 (20名様以上の団体は150円) ※次の方は無料です。

◎大学生以下 ◎学校教育活動での引率者 ◎70歳以上 ◎障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者

------ 行ってみよう資料館 ------



【電話】0857-26-8042 【ホームページ】https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/ [電台1043/〒20一042 (ホーム・ニー) (明治5/1/ (明)5/1/ (明)

国民の祝日の翌日 (土・日・祝日の場合を除く)※ただし、企画展開催中などは休館しないこともあります。 年末年始(12月29日~翌年1月3日)

【交 通】(JR鳥取駅からバスでお越しの場合)100円バス「〈る梨 |緑コース「11仁風閣・県立博物館 |下車すぐ ループ麒麟獅子「3鳥取城跡」下車すぐ 砂丘・湖山・賀露方面行 「西町」 下車 約400m 市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車 約600m

とっとりけんまいぞうぶんかざいせんたー

鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取市

【所在地】鳥取市国府町宮下1260

鳥取県内の遺跡情報を知ることができるセン • ターで、多くの出土品を収蔵しています。展示室で 行ってみよう資料館 は県内で発掘された出土品などを見学できます。



【利用時間】9:00~17:00 【休館日】土·日·祝祭日、年末年始 ※ただし、企画展等には土日開館します。





【電話】0857-27-6711 【ホームページ】https://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/

【交 通】JR鳥取駅からバス(中河原線) 「奥谷口」下車 徒歩7分

古代ミニ辞典



知っておこう'古代寺院の施設'

寺院には様々な施設があります。

ここでは出雲国分寺の復元想像図でどの様な施設があったか見てみましょう。

僧坊(そうぼう)

お坊さんの住まいです。

講堂(こうどう)

お坊さんが勉強をする 場所です。

回廊(かいろう)

中心部を囲む屋根付きの 廊下です。 正面には入口となる中門 が設置されました。



金堂(こんどう)

仏像を安置する寺の 中心施設です。

塔(とう)

仏舎利を奉る建物です。 仏教伝来当初は寺の 中心施設でした。

南門(なんもん)

寺の入口で、ここから 北が寺の敷地です。

知っていると面白い'古代の瓦'

古代になると、寺院や行政施設である官衙など一部の施設ではありますが、屋根に瓦を葺くようになり ました。平瓦と丸瓦は交互に重ねて葺いていました。軒先となる丸瓦を「軒丸瓦(のきまるがわら)」、平瓦 を「軒平瓦(のきひらがわら)」といい、端に華麗な文様を施しました。また、この時代の建物の多くは掘立 <u>柱建物(地面を掘った穴に柱を建てる建物)でしたが、瓦を葺いた屋根は重くなるため、瓦葺建物の多く</u> は礎石建物でした。

熨斗瓦 のしがわら



鴟 尾しび



鬼瓦

軒丸瓦と丸瓦

\$ 500 B B B

軒平万.



軒平瓦と平瓦



平瓦と丸瓦を組合わせた状態



軒丸瓦

入母屋造りの屋根 (模式図)